

第1回四国ブロッククラブミーティング 2010 開催報告

日時:2010年6月26日 土曜日 13時15分～17時

会場:高知共済会館

はじめに…

去る6月26日に高知県の高知共済会館にて、第1回四国ブロッククラブミーティング2010が開催された。四国ブロックの12創設支援クラブと中国ブロックの1創設支援クラブから23名の担当者和その育成を支援する3県のクラブ育成アドバイザー及び県体育協会事務担当者、地方企画班員の総数14名、並びに日本体育協会の関係者が参加した。

今回のクラブミーティングの目的は、過去のクラブミーティングを少し反省し、各クラブが少しでも前向きに取り組めるように、前半は『クラブの自己探求』をテーマに2年目クラブが1年をふりかえり、1年目クラブに対してプレゼンテーションを行うことで自分のクラブを再確認することにあつた。後半は、1年目クラブ、2年目クラブに分かれて、1年目クラブは、クラブの理念づくりや現在抱えている課題等についてのグループディスカッション、2年目クラブは、1年間の活動の歩みや補助事業終了後の自主運営を見据えた将来のクラブ像等についてグループディスカッションを行い、創設支援クラブの前向きな自立を促すためのクラブミーティングにすることであつた。

事例発表:(創設支援2年目の4クラブによるプレゼンテーション) テーマ「クラブの自己探求」

■発表者 (仮) 多度津総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会 (香川県)

まほろばクラブ南国 (高知県)

(仮称) 香美市民スポーツクラブ設立準備委員会 (高知県)

(仮称) 梶原雲の上スポーツクラブ (高知県)

■コーディネーター:前田義朗 (四国ブロック地方企画班員)

上記発表者の順序でそれぞれ自分のクラブの1年を振り返り、クラブづくりに取り組んできた状況(大変苦労したこと、失敗したこと、上手くできたこと、及び設立までに取り組まなければならないこと等)を10分～15分程度で発表していただいた。発表者は、クラブ創設1年目の活動内容と記録がよく分かるパワーポイントでまとめられ、スムーズに予定時間通りに進められた。

「(仮)多度津総合型スポーツクラブ設立準備委員会」は、当初、サッカー1種目中心のクラブづくりということで香川県のクラブ育成アドバイザーも心配していたが、フットサル、少林寺拳法、新体操、インディアカ、ゲートボール、グラウンドゴルフ、キンボール等の種目が増え、指導者やクラブづくり関係者も幅広く増えており、着実に総合型スポーツクラブとしてのクラブづくりができています。また、クラブ全体として芝生化にチャレンジしているのも評価できる。

「まほろばクラブ南国」は、toto事業と自主事業にて健康教室中心の活動から競技スポーツ団体や南国市内の各種団体との連携協力を図り、スポーツの土台作り、地域スポーツの導入口として活動を展開している組織力のあるクラブであり、南国市の各種団体の繋がりとなる立場のクラブとしての役割がアイデンティティとなっている。

「(仮称)香美市民スポーツクラブ設立準備委員会」は、高知県内でも唯一総合型地域スポーツクラブにあまり関心を示さない香美市において市民の力で少しずつではあるが着実に独創的な斬新さと行政に頼らない姿勢で設立準備を行っている。アンケート調査をもとに香美市の市民のスポーツ意識調査や既存のスポーツ団体等に迷惑にならないように独自の斬新な活動を目指している。

「(仮称)梶原雲の上スポーツクラブ」は、健康増進、世代間の交流、地域の活性化を柱に誰もが気軽に参加できるクラブを目指して活動しているが、スポーツ意識や健康意識が世代間の交流や地域の活性化にどのように影響してくるのか、町がどのように変わってくるのか地域住民に理解浸透されていない悩みも感じられた。



クラブミーティング 2010 会場

創設支援 2 年目 4 クラブのプレゼンテーションにより 1 年目のクラブは、自分たちがこの 1 年間どのようにクラブづくりをするべきかをより具体的に理解することができたと思う。(アンケート結果では、66.7%が大変参考になった。33.3%がまあまあ参考になった。と回答し、①色々なスタイルがあることが理解できた。②問題になるであろう点、取組の結果等を聞いて参考になった。③各クラブの具体的なアイデアが聞いて参考になった。④スポーツクラブの設立に目標ができた。⑤各地域の特色が出ていた。等) どのクラブもその地域の実情に合わせた独自の方法でクラブ設立の方向に進んでおり、発表したクラブもまた自分のクラブを再確認し、他のクラブの発表を聞くことにより自己探求できたと考えられる有意義な事例発表であった。

グループディスカッション

1 年目クラブと 2 年目クラブの自立に向けた次段階のディスカッションとしてそれぞれに分かれて実施した。

1 年目クラブは、事前にグループディスカッション用資料として創設支援クラブの概要と設立に向けて抱えている問題、行き詰まっている課題を事前に提出させた。1 年目クラブの抱えている実状を把握した上でディスカッションを行い、クラブ育成アドバイザーと地方企画班員からコメントや助言、指導がなされた。また、2 年目クラブは、1 年間の活動の歩みや補助事業終了後の自主運営を見据えた将来のクラブ像等についての内容で、クラブ育成アドバイザーと地方企画班員からコメントや助言、指導がなされた。1 年目クラブ、2 年目クラブがそれぞれグループごとに熱気溢れる内容の濃いディスカッションが展開された。(アンケート結果では、81%が大変参考になった。19%がまあまあ参考になったと回答し、①会費の設定等具体的な話が聞けた。②他のクラブでも同じような悩みがあることを知り、対策も聞けたので良かった。③地元講師の発掘の仕方が分かってきた。④他スポーツクラブの設立時の疑問点等を相談し勉強になった。⑤各クラブの現状を知ることで自分のクラブの活動に生かせる。等) ディスカッションを通して、どのクラブも前向きに取り組もうとする元気を共有できたように思えた。



グループディスカッション風景

主な内容は、以下に示す。

■1 年目クラブのグループディスカッション(Aグループ・Bグループ)

- 既存団体や教室との共存、連携。講師の確保、地元講師の発掘や養成等問題が山積み。
- 運営費の捻出、活動拠点の獲得、多様多世代で参加したいと言われるクラブづくり。
- まだ、十分な取組がなされていない。体協全体のまとめ役や総合型クラブ設立の人材不足。
- 運営スタッフを集めるのが難しい。ボランティアスタッフをたくさん集めたいが人材不足。
- スポーツ施設が少なく、施設利用料が高い。
- 助成年が終わったら運営費不足で不安である。

※コメント:それぞれの地域にあったクラブの目標や目的、ミッションをハッキリさせ、その地域社会の何のためにクラブを設立するのかを十分に検討する。検討から得られたその思いや実際の活動は、地域の身近な人たちに自然に理解されて協力者が得られるとともに行政の協力によって活動の拠点が確保されるものである。全国の先進クラブは、これらをクリアした上で素晴らしい運営を行っている。1 年目のクラブは、横のつながりを大切にして、クラブ育成アドバイザーを活用すること。地域の色を出していくのは地域の皆さんです。といった内容がクラブ育成アドバイザー、地方企画班員からコメントされました。

■2 年目クラブのグループディスカッション(Cグループ・Dグループ)

- 既存団体との連携は、どういう事に留意したらよいのか……
- 会費設定の方法や考え方は、何を参考にしたらよいのか……会費設定の根拠が必要である。見切りスタートは危険である。
- スタートでの行政の関わりが必要である。
- 体協をあてにしない方がよい。体協は指導者の集団と考えるべきである。
- 目標や目的、ミッションを再度見直してみる。(地域社会の中で十分に活動できる形になっているかどうか。体協と重なっていないか等の見直し及び各組織の役割分担の確認をする。)



グループディスカッション風景

※コメント:地域社会に無くてはならない必要なクラブとして、理念や方向性を十分に検討し、地域と関われるイベントにも参加することが大切。会員獲得は、広報活動も大切であるが、クラブに参加している会員の満足度を十分に高めることが重要である。会費設定は種目によっても指導者の技術技量によっても差があり、何を基本とするか難しいが、逆に「健康づくりに会費をいくら払えるか?」と考えるのも一つの方法である。助成が切れた後、運営費を会費で補うことを考えて会費を設定しているのが一般的である。このディスカッションを機会にクラブ間での情報交換をするべきである。といった内容がクラブ育成アドバイザー、地方企画班員からコメントされました。

終わりに……

過去のクラブミーティングでは、クラブのオペレーションや設定した助成金を使い切るための目今の事業運営の内容、地域社会や行政に対する愚痴が多かったが、今回のクラブミーティングでは、創設2年目のクラブが予想以上に前向きに地域のニーズにあったクラブづくりを展開しており、その発表を1年目のクラブも真摯に受けとめ、さらに前向きに取り組む意識を強めたように思えた。それぞれの地域のアイデンティティを尊重し、その中で地域社会が現在必要としているものを総合型地域スポーツクラブがかなえる大きな役割がある。その使命にたってクラブづくりをすることが地域社会への貢献になり、地域社会の発展に繋がると考える。今回のクラブミーティングでは、身の丈にあったクラブづくり、見栄を張るより地域社会に貢献できるクラブづくりといった内容が確認され、それぞれのクラブが元気を持って帰れるクラブミーティングであったと自負している。「四国は一つ!」を合い言葉に地方企画班員、クラブ育成アドバイザーをはじめとしたスタッフの総合型地域スポーツクラブにかける夢実現のそれぞれの想いが急速にピントを一つに合わせだしたように思える。

(報告:地方企画班長 齊藤栄嗣)